

NARITA 花火大会 in 印旛沼 2nd

大輪の花火に酔いしれて

2回目となったNARITA花火大会in印旛沼が10月13日、八代地先の北印旛沼湖畔に昨年を上回る大勢の観客を集めて開催されました。今年のテーマは「秋色の印旛沼に誘われて…」午後7時30分から1時間にわたり、約5,000発の花火が夜空を鮮やかに染め上げました。中でも、音楽に合わせて花火がうち上がる「音と光のシンフォニー」や最後を飾った「2尺玉」には、観客席から大きな拍手と歓声が上がりました。



光と音で観客を魅了



協力して「じゃがいももち」を切り分ける

成田の伝承料理講習会

伝えていきたい、この一品

地元の伝承料理にもっと親しんでもらおうと、アグリライフなりたによる料理講習会が9月28日、中央公民館で開催されました。今回参加者が挑戦したのは、山菜おこわ、なすのはさみ揚げ甘酢あん、巻きキャベツの酢のもの、呉汁、じゃがいももちと、どれも手軽にできて栄養満点の5品。会員から食材の生かし方や調理のポイントを教わった参加者は「ありふれた食材でも一工夫でこんなにおいしくいただけるんですね」と感心しきりでした。

仁川広域市中区と親善サッカー

サッカーを通じて国際交流

本市の友好都市韓国仁川広域市中区からサッカーチームが訪れ、10月13日、市サッカー協会の選抜チームと交流試合を行いました。この試合はスポーツ交流を通じて両市の親善を図ることを目的に、平成11年から相互に訪問をしながら行われているもので、来年は本市のチームが韓国を訪問する予定です。



市協会ジュニアとのフレンドリーゲームも行われました

成田市民運動会

練習の成果を出し合って

今年で36回目を迎える成田市民運動会が10月6日、中台運動公園陸上競技場を会場に開催されました。当日はおよそ1万人が参加し、さまざまな種目に挑戦。特に各小学校区ごとに練習を続けてきた綱引きや玉入れなどの団体種目では熱戦が展開され、参加者たちは競技を通じて地域の親睦を深めながらスポーツの秋を満喫していました。



皆の気持ちを一つにして

「ボッチガサづくり」

伝えていきたいわたしの技^{わざ}

小坂いちさん(猿山)



「作り方を若い人に教えてあげたいと思っ
ているんだ」と語る小坂いちさん

今ではほとんど見掛けなくなっ
たボッチガサ。風通しがよく、強
い日差しを遮ることができるとい
うことで、市内でもかつて田畑で
の農作業の際には普通に使われ、
田植えなどの農繁期前になると雑
貨店の軒先に並べられていました
た。このかさを今でも作り続け
ているのは小坂いちさん。材料のイ
グサに水を含ませ乾かないうちに
手際よく編んでいきます。完成ま
でに約2時間。水分を使うので真
夏や風の強い日、手がかじかむ真
冬は作れないそうです。3月ころ
から11月ごろまで午前と午後1
つずつ、年間に150ぐらいは作
るそうです。かさも手作りなら、
作る道具も手作り。竹と木材、そ
れにのりのビンのふたを利用した

とても簡単な構造のもので、作業
がしやすいようにとご自身で改良
を加えたものです。
いちさんがボッチガサを作り始
めたのは、昭和17年戦争が激しさ
を増す中、母親が突然、病気で亡
くなり途方に暮れていた時、納屋
に残っていたイグサを見つけたこ
とがきっかけでした。母親が作っ
たかさを解いて、残された道具を

使用母のしぐさを思い出しながら
失敗に失敗を重ね、ようやく雑貨
屋に置いてもらえるようになった
そうです。そして、終戦。昭和22
年に結婚その後出産。子育てに追
われる中、子どもの眠っている
間、暇をみつければ生活の足しに
かさを作り続けました。昭和38
年、近くのゴルフ場で働き始めた
のをきっかけにかさ作りとは遠ざ

かり、再開したのは今から10年前。
お孫さんが小学校に入り時間に余
裕ができ、老人会でかさの話が出
てからだそうです。
「作るには根気と手先が器用で
ないと。わたしはこういうのが好
きなんだよ」。縫い物や工芸など
多趣味ないちさん。これからも涼
しげなかさを作り続けていってほ
しいものです。



イグサを追加しながら手際よく編みこむ